

バーコード印字前のコンクリート製造・打設に関する情報については、システムサーバ上に直接データを登録することで個体情報への追加が可能である。

また、出荷検査・受入検査時には実施者等の必要事項と検査結果をバーコードリーダーで入力することにより、システムサーバ上で出荷検査表・受入検査表の自動出力を可能としている。

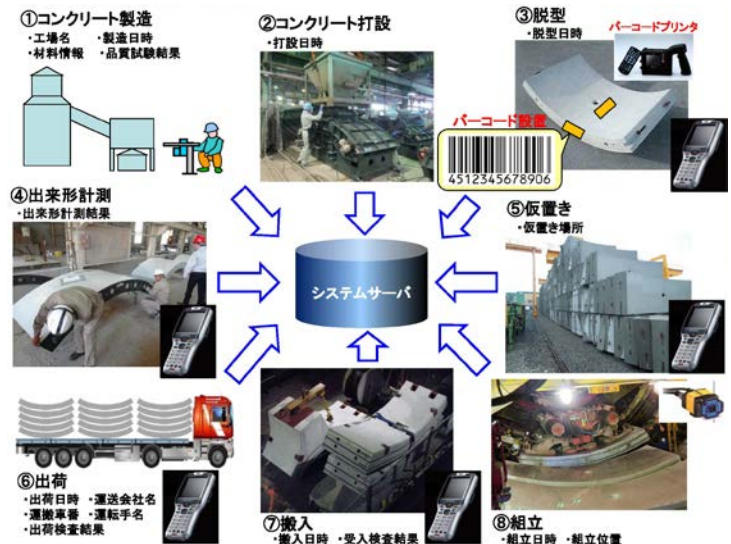


図-5 データ登録イメージ

4. システム運用状況

(1) 運用工事

以下に示す工事における本システムの運用状況を報告する（図-6）。

工事件名：東京外かく環状道路 本線トンネル（北行）大泉南工事

工事場所：東京都武蔵野市吉祥寺南町～東京都練馬区大泉町

契約工期：平成26年4月4日～平成31年10月4日

発注者名：中日本高速道路株式会社 東京支社

工事内容：シールド掘進6,974m・セグメント製作4,412R

2016年4月現在、シールド掘進を開始していないため、現状ではセグメント製作工場内での製造～仮置きについての管理としている。今後、出荷～組立においても本システムを使用して管理を行う予定である。



図-6 工場での運用状況

(2) 運用成果

本システムをセグメント工場で運用したことによる成果を以下に示す。

- ・バーコードを読み取ることにより各セグメントの詳細情報がリアルタイムにシステムサーバへ反映され、インターネット上で共有できるため、工場での製作状況を作業所職員が常時確認可能となり、進捗・出来高確認に活用している。
- ・セグメントの仮置き情報を登録することで、従来工場で行っていた棚卸作業が不要となり、工場での在庫管理が省力化された。

5. まとめと今後の展開

セグメント工場への本システムの導入により、工場内での運用における効果が確認できた。出荷～組立においても本システムを使用することにより、各種検査表の自動出力が可能となり、工場・作業所でのセグメント管理・書類作成業務の効率化を図ることが出来る。

また、現在手作業で行っているセグメントの出来形計測を自動化することにより、計測結果がバーコードにより紐付けられ、計測結果表の自動出力も可能となる（図-7）。

また、近年 CIM 推進の動きが広まり、トレーサビリティデータを属性情報として CIM モデルに紐付けることが求められてきた。本システムで蓄積したトレーサビリティデータや各種検査記録は、CIM モデルの属性情報としても活用予定である。

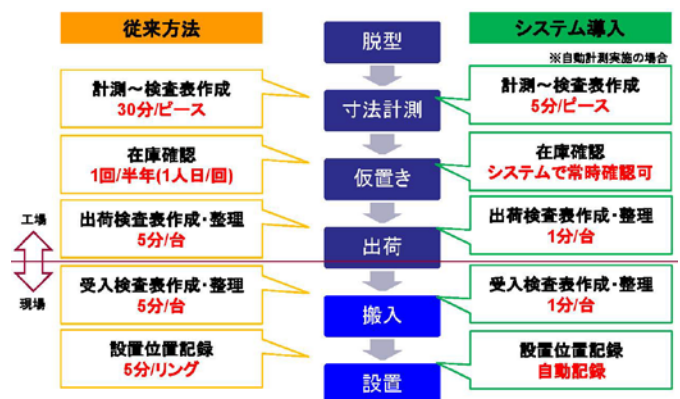


図-7 システム導入効果